

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

創立120年の歴史を有する本校は、平成29年に大阪府立初の併設型中高一貫校として新たな一歩を踏み出した。中高一貫教育を通して生徒・保護者・地域の期待に応える進路実現を図り、地域・社会に有為な人材（グローバル・リーダー）の育成を使命とするとともに、これまで培ってきた伝統にさらなる磨きをかけ、次代へ繋ぐ。

<中高一貫校としてめざす学校像>

「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材」の育成校をめざす。

<中高一貫教育を通して育みたい力>

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

- (1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。
  - ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。
  - イ 「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。
  - ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。
  - エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。

（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度（H29年度67%、H30年度74%、R01年度74%）75%以上をめざし、3年後に80%をめざす。

## 2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

- (1) SSHとして、「探究」と「貢献」をキーワードに中高一貫した教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成し、進学実績の向上を図る。
  - ア 科目「探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携を深め、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識及び、自己実現意識を育む
  - イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。
    - ・現役での国公立大学進学者の合格者数（現役合格者数 H29年度52名、H30年度50名、R01年度45名）について40名以上をめざし、富田林中学1期生が富田林高校を卒業する3年後には、5人に1人の合格をめざす。あわせて難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増をめざす。
    - ・国際社会における貢献意識の醸成もねらいとして、海外大学への進学ガイダンスの充実を図る。

（生徒向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度（H29年度82%、H30年度82%、R01年度84%）85%以上をめざし、3年後に90%をめざす。

また、（保護者向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度（H29年度79%、H30年度82%、R01年度80%）85%以上をめざし、3年後に90%をめざす。

## 3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

- (1) 充実した学校生活こそが「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。
  - ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。
  - イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。
  - ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

（生徒向け）学校教育自己診断の学校行事満足度（H29年度93%、H30年度95%、R01年度95%）90%以上を維持し続ける。
- (2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。
  - ア 国際交流（アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等）を継続し、充実を図る。
  - イ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流を継続する。
    - ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。

（生徒向け）学校教育自己診断結果で「国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」（H29年度86%、H30年度88%、R01年度91%）90%以上を維持する。

## 4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携

- (1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。
  - ア 中高一貫の観点でそれぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。
  - イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。
  - ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する

（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度（H29年度83%、H30年度86%、R01年度83%）90%以上をめざし、その後も90%以上を維持する。
- (2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。
  - ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。
  - イ 安全・安心な学校づくりに努める。
  - ウ 地域貢献を推進する。

（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度（H29年度91%、H30年度91%、R01年度92%）90%以上を維持する。また（保護者向け）学校教育自己診断においても学校満足度（H29年度96%、H30年度95%、R01年度93%）90%以上を維持する。

## 5 働き方改革の推進

- (1) 業務の効率化を図り、職員の心身の健康を維持・増進する。
  - ア ノークラブデー、ノー残業デーを徹底し、時間外勤務を縮減する。
  - イ ルーティン化している校務を見直し、業務軽減を進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和2年 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。</p> <p>ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ「授業改革推進チーム」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に全教員で組織的に取り組む。</p> <p>ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。</p> <p>エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。</p>	<p>(1) ア・45分×7限授業（高校全学年33単位）により、学校生活をデザインする。 ・新教育課程づくりに取り組む。</p> <p>イ・年度当初に教科ごとにアクティブラーニングの取組みを検討し、各教員が「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。 ・定期考査において、「思考力・判断力・表現力」を問う問題づくりを進め、教科の枠を超えて学び合えるように取り組む。 ・中高合同の研究授業を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究をおこなう。 ・生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。 ・全教科でICT機器を活用した授業を展開し、成果を生徒用学校教育自己診断で測る。</p> <p>ウ・英語のすべての科目でICT機器を活用した4技能統合型の授業を展開し、実践的な英語運用能力を高める。 ・各学年の進度に応じて、「朝学」の教材開発に取り組む。また同時にその効果検証を進め、今後の「朝学」活用方法について検討する。 ・高校1・2年生全員に英語能力試験（外部試験）を実施する。</p> <p>エ 家庭学習記録ノートを作成することで、家庭での学習時間を増やす。</p>	<p>(1) ア・(生徒向け)学校教育自己診断における授業満足度(令和元年度74%)75%以上をめざす。 ・新教育課程が完成したか。</p> <p>イ・(教員向け)学校教育自己診断「『主体的・対話的で深い学び』(アクティブラーニング)を意識して授業をしている」(令和元年度84%)85%以上をめざす。 ・考査問題に、思考力・判断力等を問うものが含まれていたか。 ・教科研修期間を設け、すべての教科で研究授業が実施できたか。また、中高合同の研究授業を実施するなど校内全体で授業研究を実践できたか。 ・2回の「授業アンケート」を実施し、全教員による授業改善シートが作成され改善がすすんだか。 ・ICT機器を効果的に活用した授業ができたか。 (教員向け)学校教育自己診断「ICT活用授業を行ったことがあるか」(令和元年度80%)80%以上を維持する。 (生徒向け)学校教育自己診断「教員によるICT機器の使用は、授業の内容を理解する上で効果的である」(令和元年度94%)90%以上を維持する。</p> <p>ウ・1・2学年全員が英語能力試験(GTEC)を受験し、その技能別結果を「見える化システム」に反映させ、全生徒が活用できたか。 ・「朝学」の効果検証を行い、今後の取組みの検討がなされたか。また、その結果、今後3年間を見通した実施計画が作成されたか。</p> <p>エ (生徒向け)学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」3学年平均(令和元年度64%)75%をめざす。</p>	

<p>2 高い志をばぐくみ、進路実現をめざす取組み</p>	<p>(1) SSHとして、「探究」と「貢献」をキーワードに中高一貫した教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成し、進学実績の向上を図る。</p> <p>ア 科目「探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携を深め、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識及び、自己実現意識を育む</p> <p>イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現役での国公立大学進学者の合格者数40名以上をめざし、あわせて難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増をめざす。</li> <li>・国際社会における貢献意識の醸成もねらいとして、海外大学への進学ガイダンスの充実を図る。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・本校のSSH（開発型）の目標（課題解決に向けた科学的探究力及びその探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発）を具現化するプログラムを実行し、その成果を分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSHとして、1年次の「探究」において、地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）との連携を基礎に、ゼミ形式で探究活動を進め、学年末には中学とともに学年での発表や地域フォーラムを開催する。</li> <li>・科目「探究」の内容を発展的に継承していくために、組織的な取り組みについて検討する。</li> <li>・スマートスクール「モデル校」指定を受け、海外の高校生等とテレビ会議システムを活用した日常的な共同研究に取り組む。</li> </ul> <p>イ・本校独自の中高一貫した「学習見える化システム」を継続活用し、全生徒に将来の目標設定を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者に適切な進学説明会を継続して実施する。</li> <li>・海外進学についてのガイダンスを実施する。また、「おおさかグローバル塾」など、海外進学についての事業や説明会について、適宜情報提供を行う。</li> <li>・生徒のニーズを捉えた進学講習を充実させる。</li> <li>・外部模擬試験の結果などの振り返りを、データに基づき効果的に実施する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・SSHとして本校の到達目標を具現化するプログラムによる生徒の成長をPROG（リテラシーテスト）等で分析できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（生徒向け）学校教育自己診断「『探究』」などの学習活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身につく（令和元年度67%）70%以上をめざす。</li> <li>（教員向け）学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身についた」（令和元年度80%）80%以上を維持する。</li> <li>・地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）を巻き込んだ地域フォーラムが開催できたか。また府外の学校からも参加者を集めることができたか。</li> <li>・「探究」の取組みについて、学年間の情報共有が図られたか。</li> <li>・海外の学校とテレビ会議システムを活用して共同研究が行えたか。</li> </ul> <p>イ・生徒の「見える化システム」の利用率100%をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学現役合格者数40名以上をめざす。</li> <li>（生徒向け）学校教育自己診断における進路指導関連項目（「科目選択」「授業・講習」「進路情報提供」）の平均値（令和元年度82%）85%以上をめざす。</li> <li>・（保護者向け）学校教自己診断における進路指導の満足度（令和元年度80%）80%以上を維持する。</li> <li>・2学年後半から計画的に進学講習（国・数・英）が実施できたか。（生徒向け）学校教育自己診断「講習等で進路達成に必要な学力が身につく」（令和元年度80.1%）80%以上を維持する。</li> <li>・模擬試験などの結果について、データに基づき振り返り振り返り取り組みを実施できたか。</li> </ul>
-------------------------------	--	---	---

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をばぐむ取組み</p>	<p>(1) 充実した学校生活こそが「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。 ア 学校教育目標で設定した「育みたい力」の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。 イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。 ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。 ア 国際交流(アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等)を継続し、充実を図る。 イ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流を継続する。 ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。</p>	<p>(1) ア・中高合同の学校行事の効果的な実施と成果を検証する。 文化祭・体育祭における準備委員会を活性化させるとともに、次年度への引継ぎ体制を構築する。 2年目となるベトナム修学旅行を充実させ、3年目へと引き継ぐ。特に現地での学校交流の深化を図る。 部活動への参加を奨励する。 イ・これまで実施してきた研修内容を踏まえ、新たな研修計画を立案する。 ・挨拶、遅刻指導に取り組み、生活マナーを向上させる。 ・富田林高校生としての行動規範的な生徒宣言の作成に、生徒会執行部が中心となって取り組む。 ウ 中高一貫した「いじめ基本方針」に基づき、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</p> <p>(2) ア 台湾やオーストラリア、タイをはじめとする様々な国の生徒との交流を充実させる。 イ・オーストラリアの姉妹校との継続交流を図る。 ・ベトナム修学旅行における学校交流の中で、課題研究を英語で発表する。 ・中高6年間を見通した海外研修を複数計画し、それぞれの研修のねらいを明確にして実施する。</p>	<p>(1) ア・(生徒向け)学校教育自己診断結果における行事満足度(令和元年度 95%)90%以上を維持する。 ・部活動加入率(令和元年度 92%)90%以上を維持する。 イ 時代のニーズに合致した人権研修が実施できたか。 ・(生徒向け)学校教育自己診断結果における人権教育満足度(令和元年度 91%)90%以上を維持する。 ・(生徒向け)学校教育自己診断結果における校則遵守率(令和元年度 97%)95%以上を維持する。 ・生徒宣言が完成したか。 ウ (生徒向け)学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度(令和元年度 86%)90%以上をめざす。</p> <p>(2) ア 多くの生徒が海外の高校生と交流できたか。 イ・オーストラリアの姉妹校と交流ができたか。 ・ベトナム修学旅行において、英語での課題研究発表ができたか。 ・ねらいを明確にした海外研修を実施できたか。 ・(生徒向け)学校教育自己診断「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」(令和元年度 91%)90%以上を維持する。</p>
--	---	--	--

<p>4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。 ア 中高一貫の観点でそれぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。 イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高一貫6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。 ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する</p> <p>(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。 ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。 イ 安全・安心な学校づくりに努める。 ウ 地域貢献を推進する。</p>	<p>(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。 ・中高一貫教育の観点で再編した分掌(中高一貫創生部)を機能させる中で、人材育成を図る。また、中高一貫校となって4年目を迎える次年度を契機に、分掌再編を検討する。 イ 全国の先進中高一貫校の視察と情報収集を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。 ウ 中高一貫校としてふさわしい学校ウェブページとし、積極的に効果的な情報発信をする。</p> <p>(2) ア・学校運営協議会を通して、学校運営や学校の課題に対して、保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画できるよう努める。 ・「めざす学校像」の共有化を図るとともに、コミュニティ・スクールについての情報収集を継続する。 イ・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。 ・安否確認等を迅速に行えるよう、連絡手段を確立させる。また、適当な時期に想定訓練を実施する。 ・教育相談係による情報を収集し共有する。</p> <p>ウ・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。 ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携を踏まえた「探究」の成果発表会である地域フォーラムを開催する。 ・地域貢献活動を実施する。</p>	<p>(1) ア・中高それぞれの対応する分掌が協働的に機能したか。 ・分掌再編に向けての検討が具体化されたか。 イ 中高一貫校の先進校情報を収集し、学校づくりに活かされたか。 ウ 中高一貫校としてふさわしい学校webページから積極的に効果的な情報発信ができたか。 (保護者向け)学校教育自己診断における情報発信の満足度(令和元年度83%)85%以上をめざす。</p> <p>(2) ア・学校運営協議会において、保護者や地域の住民の方々が活発に意見交換を行い、学校運営に参画できたか。 ・(生徒向け)学校教育自己診断における学校満足度(令和元年度92%)90%以上を維持する。 (保護者向け)学校教育自己診断における学校満足度(令和元年度93%)90%以上を維持する。 イ・連絡手段体制が確立し、想定訓練等も実施できたか。 ・(生徒向け)学校教育自己診断「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」(令和元年度67%)70%をめざす。 ウ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動ができたか。 ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携を踏まえた「探究」の成果発表会である地域フォーラムを、前年度規模以上(令和元年度27団体参加)で開催できたか。 ・河川清掃などの地域でのボランティア活動を継続できたか。</p>
<p>5 働き方改革の推進</p>	<p>(1) 業務の効率化を図り、職員の心身の健康を維持・増進する。 ア ノークラブデー、ノー残業デーを徹底し、時間外勤務を縮減する。 イ ルーティン化している校務を見直し、業務軽減を進める。</p>	<p>(1) ア 各クラブのノークラブデーの徹底を周知するとともに、本校のノー残業デーである金曜日に掲示板等での呼び掛けも行って、定時退勤を促す。 イ 校務の見直しを行い、ルーティン化している業務を廃止するなどして、軽減化を図る。</p>	<p>(1) ア・ノークラブデーやノー残業デーが徹底されているか。一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務(令和元年度47時間37分)を1割削減する。 イ・校務の見直しを図ったか。 ア、イとも、(教員向け)学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度(令和元年度84%)85%以上をめざす。</p>